

大学生のバイトテロに対する意識について
信田修吾 (22011255sn@tama.ac.jp)

1. はじめに

研究の背景と目的

現代ではインターネットの発展と共にSNSが多くの人に普及している。総務省調べによると、スマートフォンの普及率が86.8%と八割を超える状況にあり、SNSの使用率は48.8%とおよそ半分となっている。多くの人がSNSを利用している以上、バイトテロに対する意識を強めるべきであると考え。バイトテロが起こす被害というのは、とても大きく、チェーン店での被害額が1000万を超えることもある。最近では、あまりメディアで取り上げなくなり、今の大学生のバイトテロに対する意識が薄くなっていると考えた。

そのため、バイトテロの意識を聞き、バイトテロの危険性を理解しているかなどを聞いていく。

2. 先行研究の分析

先行研究ではSNSの炎上について調べた。

・SNSにおける炎上リスク分析と対策システムの開発 山下では、SNSから個人情報特定されるリスクを研究していた。例えば本名を公開していないTwitterでも、本名を公開しているFacebookのアカウントを特定できると分析していました。よって、SNSの特定というのは第三者が出来る環境にあるとしていた。

・ネット炎上の実態と政策的対応の考察 山口では、インターネットの炎上に対してどれほどの関心があるのか、SNSの誹謗中傷などの関心を調べていた。その結果、SNSの暴言などはあまり良く思っていないことが分かっている。SNSの炎上はごく少数の人が起こしており、ほとんどの人が他人事であると考えていた。

3. 研究方法の予定

多摩大学生対象にアンケートを実施する。アルバイトやバイトテロに対する意識を調査するため、アルバイトをしている人が多いと予想される2.3年生を対象に取りたいと考えている。アンケートの内容は、アルバイトに対する意識、バイトテロに近い行為を見たことはあるか、バイトテロに対する危機感といったものをアンケートで聞いていきたい。

4. 今後の課題とスケジュール

まとめと今後の課題を書く。

今後はアンケートの設計と、アンケートの実施、作成を行っていく。来年度の4月5月にアンケートを実施し、分析を行っていききたい。

今後の課題としては、

- ・どのような質問をアンケートで行えば、大学生のバイトテロに対する意識調査になるか
- ・アルバイトをしたことが無い人へのアンケート内容はどうするか
- ・テーマがぼんやりしていることよってどんな終着点になるか分からない

など

今後のスケジュールではアンケートを3月末までに完成 4年の学期初めに齋藤S教授にアドバイスを貰い 5月までにはアンケートを実施する

その後アンケートを集計し、その結果をまとめていく予定である。

参考文献

総務省 (デジタル利用環境・サービス等の活用状況 2021)

「SNSにおける炎上リスク分析と対策システムの開発」(山下・中村・川村・鈴木・東京工業高等専門学校・北海道大学)

「ネット炎上の実態と政策的対応の考察」(山口)